

日本語の進歩が実感できる簡単な評価の方法を

10月08日

◇1/7の報告会の持ち方について

9月の報告会では、限られた時間内での発表だったので、次回は、パフォーマンス評価とルーブリックの使用について、より理解しやすい会にするため、

・事前に参加希望者が取扱説明書とルーブリックを見ておけるようにあらかじめファイルを公開する。

・文字情報だけでなく、活動とルーブリックの説明をしている動画ファイルも公開する。

・報告会当日は、動画ファイルのダイジェストを放映し、質疑応答の時間を確保する。

動画ファイルは、11/2の会議中に録画し、会議後に編集する。1/7報告会では、各動画のダイジェスト版を使用する。

それらのファイルは、報告会で興味を持った方や、実際に使ってみようと思った方のため、報告会後も閲覧できるようにしておく。従って11/2の部会委員会は次のように進める。

◇11/2（木）の会議中に一人一人の説明動画を収録します。

・説明は3分間とする

・説明用にパワーポイントスライド（上限3ページ）を使用する（次回までの宿題）

・説明には次の内容を含める

①4技能（聞読話書）のうち、どの力（あるいは複数技能を統合）を育てるかの説明

②評価課題（活動）についての説明

③ルーブリックの解説（実際に評価する際のポイント、注意点、迷いやすい点など。評価サンプルを示しても良い）

④まとめ、推しのポイント

◇9月の報告会で出た意見や今、シート作成上困っていること等

「理解している」や「大体」といった言葉など、判断基準が主観的になりがちな面をルーブリックを使っていくことで教師も子どもも慣れていき、そのファジーさを排除していく。

「聞く力」をはかる評価で、読み聞かせをした後のクイズの作り方が教師によっては課題となることがある。5W1Hなどの事実を教師が語る話から、必要な情報を聞き取ろうとする態度やその力を養おうというねらいから、クイズの問題（5問）を作成する。メモを取る行動もルーブリックにいれることができる。対象が高校生なら、社説を題材とすることも可。

この事業は来年度も継続するので、引き続き探究し、評価法の充実を図りたい。来年度は今年選んだ4技能以外のスキルをのばす評価法を作れるように考えておく。